

(社) 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会  
第2回 浅地中処分安全評価分科会 (F7SC) 議事録

1. 日時 2003年6月24日 (火) 13:30~16:50

2. 場所 (社) 日本原子力学会会議室

3. 出席者 (敬称略)

(出席委員) 長崎 (主査), 木村 (副主査), 山本 (幹事), 大浦, 大間, 黒田, 坂下,  
三倉, 富樫, 中居, 橋本, 牧野, 増井 (13名)

(欠席委員) 河田, 佐藤 (2名)

(常時参加者) 安達, 落合, 阪西 (3名)

(事務局) 太田

4. 配付資料

F7SC2-1 第1回 浅地中処分安全評価分科会議事録 (案)

F7SC2-2 標準委員会の活動概況

F7SC2-3 標準作成手引き

F7SC2-4 附属書1 (規定) 標準の体裁 (案)

F7SC2-5 標準の「参考と解説」について (素案)

F7SC2-6 東海発電所 廃止措置計画の概要について

F7SC2-7 RI・研究所等廃棄物に関する取り組み

F7SC2-8 クリアランスレベル算出における安全評価

F7SC2-9 東海研究所の廃棄物埋設実地試験における安全評価

F7SC2-10 原安委第3次中間報告の概要

F7SC2-11 六ヶ所低レベル放射性廃棄物埋設施設の概要

F7SC2-12 極めて放射能レベルの低い放射性廃棄物処分の標準的な安全評価手法 (骨子)

F7SC2-13 「極めて放射能レベルの低い放射性廃棄物処分の標準的な安全評価手法」の  
検討状況報告

参考資料

F7SC2-参考1 浅地中処分安全評価分科会委員名簿

F7SC2-参考2 標準化のスコープと類似の処分概念

F7SC2-参考3 長期的評価の考え方

5. 議事

(1) 出席委員の確認

事務局より、出席者の確認の結果、15名の委員中13名の委員の出席があり、決議に必要な委員数 (10名以上) を満足している旨の報告があった。

(2) 前回議事録確認

事務局より、前回議事録案 (F7SC2-1) の報告があり、これを承認した。

(3) 人事について

事務局より、安達京一氏 (日本原子力発電) から常時参加者登録の依頼がある旨の報告があり、全会一致でこれを承認した。

(4) 標準委員会の活動状況報告

事務局より、F7SC2-2に沿って最近の標準委員会の活動状況報告を行った。

(5) 標準作成手引きについて

事務局より、F7SC2-3~2-5に沿って標準の様式等に係る概略の説明を行なった。本学会標準は、JISに準拠して作成するとしており、詳細についてはJIS Z 8301「規格票の様式」を参照する旨述べられた。

(6) 極めて放射能レベルの低い放射性廃棄物の処分計画

a. 東海発電所 廃止措置計画の概要について

山本幹事より、F7SC2-6により日本原子力発電東海発電所の廃止措置計画の概要についての紹介があり、以下のような質疑が行われた。

- ・除染により、金属廃棄物（汚染）発生量が約2,770t→約50tに減少しているがどのような条件設定をしているのか。
- ・NUPECにおいて実施された確証試験結果を基に設定している。
- ・廃棄物の核種組成等も分かっているのか。
- ・各廃棄物ごとに評価を実施しており、その結果を基にL1～L3の区分を行っている。

#### b. RI・研究所等廃棄物に関する取組み

富樫委員より、F7SC2-7により（財）原子力研究バックエンド推進センターにおけるRI・研究所等廃棄物に関する取組みについての紹介があり、以下のような質疑が行われた。

- ・廃棄物の発生予想において、施設の解体はどのように想定しているのか。
- ・ふげん、もんじゅ、研究炉の解体を考慮している。

### （7）既往の安全評価事例

#### a. 既往の安全評価事例と標準化の関係について

黒田委員より、F7SC2-参考2により、本日紹介される既往の安全評価事例と標準化の関係について説明があった。

#### b. クリアランスレベル算出における安全評価

木村副主査より、F7SC2-8により、原子炉施設に対するクリアランスレベル算出における安全評価に関する紹介があった。

#### c. 極低レベルコンクリート廃棄物の埋設実地試験

中居委員より、F7SC2-9により日本原子力研究所で実施されている極低レベルコンクリート廃棄物の埋設実地試験の安全評価に関する紹介があった。

#### d. 原安委第3次中間報告の概要

増井委員より、F7SC2-10により原子力安全委員会による第3次中間報告における非固型化金属等廃棄物の政令濃度上限値算出での評価シナリオ等に関する紹介があり、以下のコメントがあった。

- ・本評価では、放射化金属についても他の金属廃棄物（汚染）にあわせ、浸出率を見込んでいない。標準化に当たっては留意する必要がある。

#### e. 六ヶ所低レベル放射性廃棄物埋設施設の概要

大間委員より、F7SC2-11により六ヶ所低レベル放射性廃棄物埋設施設の概要及び安全評価に関する紹介があった。

### （8）今後の進め方（次回議題）

#### a. 極めて放射能レベルの低い放射性廃棄物処分の標準的な安全評価手法（骨子）

中居委員より、F7SC2-12により標準の骨子に関する紹介があり、以下のような質疑が行われた。

- ・「発生頻度が小さい」とは、「事故」を想定しているのか。
- ・「事故」は操業中での想定事象であり、ここで言う「発生頻度が小さい」は、管理期間終了後における事象の一部をさしている。
- ・「5. 評価モデル」には地下水移行シナリオに関する評価モデル等もはいるのか。
- ・本日の資料では例示として、跡地利用経路のみを記載している。標準では選定した全てのシナリオ（経路）における評価モデルを記載することになる。
- ・適用範囲の「固体状廃棄物」という表現は、対象とする廃棄物が包含できるよう適切な表現にする必要がある。
- ・本日は、骨子にて紹介であり次回からは、標準化を行うための論点、基本的考え方を提示し、議論を行いたい。

#### b. 極めて放射能レベルの低い放射性廃棄物処分の標準的な安全評価手法」の検討状況報告

増井委員より、F7SC2-13により9月12日開催の標準委員会への報告内容案に関する紹介があり、以下のようなコメントがあった。

- ・スケジュールが入っていないので、記載する。
- ・RI・研究所廃棄物に関する記載「・・・処分も進められる。」は、「処分に向けての検討が進められる。」に修正する。

### （9）今後の予定

次回分科会を9/17 13：30から開催することとした。